

地域の魅力と課題を見つけるフィールドワーク

「まちなかりサーチ」実施

めぶく

地域活性化プロジェクト

前橋市立前橋高等学校

探究通信
第5号

HPが新しくなりました

1年生の新たな試み

9月24日(金)に1年生が「まちなかりサーチ」を行った。前橋中心市街地を6つのエリアに分け、地域活性化について考えるフィールドワークを展開した。

本校では過去3年間にわたり、1年生の探究学習として「前橋中心商店街インタビュー」を実施してきた。これは生徒が班に分かれ、各通りの店舗を担当してイ



活動的に商店街を歩く生徒たち(上:中央通り 下:立川町通り)



ンタビューを行い、店舗についてまとめ、発表(発信)するというものであり、前橋市活性化につながる「芽」を見つめるため、課題を探し出すという内容であった。4年目の今回は「まちなかりサーチ」と名称を変え、実施形態も変えた。それぞれの班に担当店舗はなく、6つのエリア(弁天通り、広瀬川詩の道周辺、中央通り周辺、前橋駅北口周辺、馬場川通り周辺、千代田通り、銀座通り周辺、オリオン通り、立川町通り周辺)を歩いて、それぞれのエリアにおける魅力と課題を発見し、班で共有する活動を行った。生徒たちは、本校が作成した「視点」(キーワードとして「地域を元気に」/「多様な人々の共生」/「人生の充実」/「暮らしや仕事を支える技術」/「健康で安全な暮らし」/「持続可能な社会」)の6つの視点を設定)を持って地域課題を見つけるためのワークシートと、前橋観光コンベンション協会が発行している「前橋まちなか&新前橋駅周辺マップ」を持って2時間を超えるフィールドワークを行った。生徒たちのほとんどは、中心市街地をじっくり歩くという経験をしたことがなく、新鮮な時間となったようだ。野原新菜さん(大胡出身)は「祭りがなくなって足が遠のいていた。平日に来るのは初めてかも知れないが、

は初めてかも知れないが、き、中心市街地の全体的な地域課題を見つけてほしいという意図のもと、店舗へのインタビューを必須条件とはしなかった。しかし、時間が経つにつれ、生徒たちは気になる店舗に足を運び、情報収集のため積極的に店主とコミュニケーションをとるなどの主体的な活動を行っていた。これは過

一つひとつの店舗が大型ショッピングモールにはない、『古き良き』というような雰囲気を持つていて良かった」と話した。

今回の経験と、11月実施予定の「市内企業フィールドスタディ」で企業訪問での経験を通して、今後地域活性化に向けた課題解決能力を育んでいく。

去3回にわたり、商店街の方々に協力をお願いしており、本校の探究学習に理解をいただいているという点も関係している。大谷優奈さん(みずき出身)は「歩いている時、街にいる方にたくさん話しかけてもらった。様々な世代の交流の場になる可能性を感じた」と話した。

「市前×まえばしハニープロジェクト」前進

9月6日(月)放課後、前橋市まちづくり公社「まえばしハニープロジェクト」担当の方に来校いただき、2年生12名がプレゼンを行った。「地域活性化のために何ができるか」という問題提起に対し、「はにふる」と「Honey's Kitchen」の2班による提案をした。前橋のフルーツを活かしたスイーツづくり、はちみつや赤城山に自生する花を使った料理を売るキッチンカーなどについて言及し、課題や実現に向けて本校生徒がどのように関わっていくかの発表を行った。プロジェクトは進んでいる。

